

敬愛する里親の皆さま

わたしたちの救い主イエス・キリストの御名においてご挨拶申し上げます。

プリにおける「発展と教育のためのキリスト教機関 (CODE)」の管理・運営部、職員、プリ・キンダーガルテンスクールの愛する子どもたちを代表して、これまでわたしたちの旅路を共に歩んでくださっている里親、また友人である皆さまに心よりの感謝とを申し上げます。

ここ数ヶ月の間に、わたしたちが立て続けに受け取ることができた祝福について、神さまに深甚なる感謝を捧げています。皆さんからの揺るぎないご支援、寛大さ、献身がなければ、わたしたちの使命とする「教育を通して、助けを必要とする子どもたちの底上げを図る」ことの実現はできませんでした。

わたしたちは、皆さんからの支援と励ましを通して、プリ・キンダーガルテンスクールの生徒たちへの養育・支援を可能とする環境を提供することができています。生徒たちの生活にみることができると前向きな変化は、皆さんからの支援が与えた影響のよき証です。一人ひとりの笑顔、発せられる励みになる言葉、一步一步の生徒たちの前進は、皆さんの参加がもたらした変化を映し出す鏡となっています。

以下のことについて特に感謝しています：

- ・経済的支援：皆さんからの経済的支援により、わたしたちの活動の継続、拡大が可能となり、すべての生徒たちが教育と成長にとって必須のリソースを受け取ることができています。
- ・祈りと励まし：皆さんからの霊的支援と、わたしたちの働きへの信頼が、わたしたちの職員、また生徒たちの力とモチベーションの源となっています。

感謝なことに、数ヶ月におよぶ耐えがたい夏の酷暑の後に、まとまった雨が降ってきています。わたしたちのプリという町はインド東方に位置するオリッサ州にあり、夏の暑さと湿度は特に厳しい場所でもあります。3月から夏の暑さが始まり、7月末までそれが続きます。全体的に気温は高く、日差しも強く、気温は40度で湿度も高めです。このような状況の中で州政府は4月から6月第1週までを夏休みと定め、新学期の授業は、午前6時半から10時半までと決定しました。他の学校と同様に、プリ・キンダーガルテンスクールでも6月3日から、そのようにしています。以前からプリ・キンダーガルテンスクールの授業はこの同じ時間でしたので、この変更は全く問題ではありません。

新学期には25名の新入生が入学し、合計75名の生徒全員が学校に必要な制服2組、靴、靴下2組、教科書、ノート、自由帳、ペン、鉛筆、色鉛筆、クレヨン、通学バッグ、ネクタイ、水筒を無料で受け取りました。学校では毎朝、無償で朝食を提供しています。わたしたちの学校が大切にしていることは、質のよい教育を、「助けを必要とする」子どもたち

に完全無償で提供し、保護者に負担をかけないこと。そのことにより、すべての子どもたちが平等に、人生を成功させる機会を受けるものです。この無償の教育に取り組む目的は、経済的状況による制約を取り除き、多種多様な背景をもつ生徒たちを支援し、質のよい学びの経験がしやすいようにすることにあります。

大変残念なお知らせですが、国内外でよく知られているような幾つもの団体と同様に、わたしたちの団体も、政府からの次の通達があるまでは、外国からの寄付を受け取ってはならないと命じられています。そして、このことは、日本の里親の会やその他個人からの献金により運営をしているわたしたちの団体にとっては、致命的なことでした。わたしたちがこのような働きを初めてから何度も経済的困難に直面しながらも、2つの子どもの家（男子寮と女子寮）を31年間、運営してきました。そして、その働きは完全に日本バプテスト女性連合（旧 婦人連合）の支援によるものでした。しかし、残念ながら州政府による新しい法律により、それらを閉鎖せざるをえない状況へと追い込まれました。支援はそこで途絶え、わたしたちは経済的危機に陥りました。

しかしながら、そのような中であっても、わたしたちは子どもたちのための働きがしたい、教育に携わりたいということでキンダーガルテンスクールを開校しました。幸いなことに多くの友人らが里親の会を通して支援をしてくださいました。2016年から、現在の「ブリ里親の会」が、わたしたちの働きを支援してくださり、75名の助けを必要としている生徒たちが在籍するブリ・キンダーガルテンスクールの運営が経済的に可能となっています。わたしたちは日々、政府が定めた制限が解除されるようにと祈っています。どうぞ、皆さんもご一緒に祈りを合わせていてください。神さまがこのような状況をも乗り越えさせてくださいますように。

妻は長い間、日本を訪れたいという夢があり、その飛行機代のために少しずつ貯金をしていました。大変感謝なことに、この夢は、彼女の希望を知った日本の友人らが彼女を温かく迎え入れ、日本国内での移動を助けてくださることにより叶えられました。妻チャルシュリーと娘のディビヤ・プラタマ（通称チュッキ）は2024年5月17日に日本に到着し、5月27日まで滞在することができました。彼女たちは、東京、福岡、長崎などの観光名所を訪ね、大井教会、姪浜教会、長住教会、長崎教会などの諸教会や、西南女学院、西南学院などの大学、短大、高校、浦和バプテスト保育園でお話しや訪問をし、浦和の日本バプテスト女性連合事務所もお訪ねすることができました。女性連合事務所をお訪ねした際には何度もインドを訪れてくれた旧友らが、そこに会いに来てくれたと、そこでの再会を彼女たちは大変驚き、喜んでいました。今回の訪日は多くの方々の協力により、忘れられない、また楽しい滞在となりました。支援してくださったお一人おひとりの優しさと寛大さに心からの感謝をお伝えしたいと思います。彼女たちは今なお、思い出を大切に、日本訪問での体験を周りの人たちと分かち合っています。

親愛なる里親の皆さん、このニュースレターを閉じるにあたり、インドにおけるわたし

たちの働きへの、お一人おひとりからのご支援に重ねて感謝申し上げます。皆さんが、わたしたちと協働して、幼い生徒らの人生に得難い変化をもたらし、その輝かしい将来への道備えに参加しておられる存在であることを是非とも覚えていただければ幸いです。

神が、皆さんのご親切とご厚情の故に皆さんを幾重にも祝してくださいますように。

ディレクター

S.K.モハンティ

住所： Christian Organization for Development and Education

Naomi Building, Station Road,

Puri 752002, Odisha

India

※文具などを送った場合、課税されることが増えてきたとのことで、今しばし、文具の送付は控えて欲しいとのことです

現在の送金について

インド国内に在住のバプテスト教会員の方のお働きを通して、送金を継続することができています。ただしラインや通話も厳しい監視下にありますので、詳細をお伝えすることが出来ません。このルートが安全に守られますようにお祈りください。

里親の会世話人会代表 松本素代美

メール： childrenshomepuri9@gmail.com

電話： +91-8114996370



音楽クラス



下校風景



配布する教科書と制服



新入生に配布



入学説明会